

長江洪水

日本列島梅雨明けなしの長梅雨に長江大洪水、そして少ない台風発生に中国雲南省の梅里雪山で遭難者の遺体を七年ぶりに発見が伝えられた。これらの二ノスを結ぶ鍵を握っているのが、東南アジアのモンスーンの異変である。空の水道と呼ばれるモンスーンの蛇口が壊れてしまったのである。

長江の洪水が伝えられ始めた頃の七月の中ごろ中国南部、雲南省奥地の標高四〇〇〇メートル付近の水河のなかから七年前の遭難者の遺体が次々と発見された。標高二四〇〇メートルの未踏峰、梅里雪山の登山中の京都大学学士山岳会と中国合同登山隊が豪雪に見舞われ下山中に大雪崩で遭難、深い雪の下に埋まってしまった。その遺体が甦ってきたのである。

梅里雪山の地は大河長江の上流部に近い。ベンガル湾からのたつぷり湿った南西モンスーンがミャンマを越え、長江上流から中流域では例年になく豪雨が長く続いた。夏の季節、高度四〇〇〇メートル付近では零度より少し高く、暖かい豪雨で一気に雪解けが進んだ。今年は遭難した年のようにチベット高原付近では例年以上に大雪が積もったが、それにもまして異常気象が雪渓

の雪の覆いを取り去って遺体を帰してくれたのだろう。

早い梅雨の走りが始まった日本列島の梅雨が、東日本では梅雨明けが八月にずれ込み、北陸から東北地方はついに梅雨明け特定できない長梅雨となってしまった。五年ぶりともいわれる大きな洪水被害となった長江は、中流域の各所で氾濫し大都市武漢防衛のため堤防爆破が試みられ今なお危険が続いている。

例年なら台風の卵を産む雲の帯がフリッピン付近の海上に出来上がるのが、雨が長江へ長江の上流へと流れて台風が記録的に少ない。この雨をもたらすベンガル湾からの湿ったモンスーン気流が今年は異常に長く続いているのが特徴で、台風の身代わりが長江の大洪水になっているのである。

長江洪水、梅里雪山、長梅雨、少ない台風というキーワードの流れも、秋の近づきとも終止符をうち、日本列島はまさに台風襲来の季節となってきた。今日あたり台風上陸の活字が踊っているかもしれない。

(村松 照男)